

タイトルの「岁月继续 葳蕤生香」は「素晴らしい思い出はいつまでも忘れずに、未来は常に花が咲き誇り、春のように明るく希望に満ちていることを願う」という意味です。

第4回

岁月继续 葳蕤生香

王 克麗 (ワン・ケリ)

1992年、中国の河南省生まれ。

日本の音楽や映画、ドラマを通して日本に興味を持ち、天津職業技術師範大学で日本語を学ぶ。2023年4月10日、中国語のALTとして白糠に着任。



いつもコラムを読んでいただき、ありがとうございます！皆さんから「コラムを読みましたよ」と声を掛けていただけるのがとても嬉しんです。もしお会いする機会があれば、ぜひ声を掛けてくださいね。

さて、今回のコラムではALTとして主に茶路小中学校に勤務しているマリア先生と一緒に、アメリカと日本の学校での「生徒の注意の仕方」についてお話しします。

マリア先生はアメリカ出身で、日本の学校での勤務はまだ2カ月ですが、アメリカと日本の教育現場での違いに驚いたことがたくさんあるそうです。

アメリカの学校での注意の仕方

アメリカでは、授業中に騒いだり問題行動を起こした生徒に対して、担任教師は何度か注意をした上で「校長室へ行きなさい！」と最終通告をします。これは小学校から高校まで共通しています。生徒は校長室で校長先生から厳しく指導を受けることが一般的です。

また、問題行動を起こした生徒は、放課後に学校に残されることもあります。この時間は30分から2時間までとさまざまで、その内容も生徒にとって「退屈でつまらない」と感じるものになっています。例えば、繰り返し計算問題を解かせたり、同じ文を書き続けたりとといった具合です。さらに、問題行動が繰り返されると、数週間の「校内停学処分」を受けることがあります。以前は「自宅待機」が一般的でしたが、これだと学習機会を失うだけでなく、生徒の問題行動がさらに悪化する恐れがあるため、現在では「校内停学」といって、他の生徒とは違う環境で学習を続けさせる方法が一般的となっています。



放課後の学校で同じ文章を書かされる児童

掃除は懲罰？

おもしろいことに、アメリカでは生徒が教室や校内の掃除をすることがほとんどありません。もし先生が「掃除をきなさい」と指示すると、多くの親が「体罰」と見なし、学校に苦情の電話をかけてきます。生徒たちは、図工や体育の授業後に、自分の使った道具を片付けることはありますが、それ以上の清掃は用務員が行っています。

アメリカでは、学校の掃除や配膳は大人の仕事で、未成年の生徒たちに大人の仕事をさせるのが不当であると考えられています。マ



茶路小中学校で英語の授業を行うマリア先生

リア先生は、日本の学校で生徒たちが自主的に掃除をしたり、給食の準備や配膳をしている姿を見てとても驚いたそうです。

このようにアメリカと日本では、「注意の仕方」が大きく違います。日本では、掃除を通じて共同体意識や責任感を育むことを大切にしています。アメリカではそれが「罰」とみなされているのです。

中国の学校は日本と同様に掃除することが罰だとは思われていません。

今回は、マリア先生と一緒にお届けしましたが、皆さんの感想をぜひお聞かせください。次回のコラムもお楽しみに！